

はじめに

ここ数年のケーブル&衛星業界の動向は、読者の皆さまにここで特筆するまでもありませんが、なんといっても「デジタル化」の動きにともなった大きな変化が起っています。そしてさまざまな情報通信メディアのデジタル化に加え、放送・通信の融合や国際化が加速度的に進んでおり、まだまだその勢いは止まることを知らない状態といえるでしょう。

こうした中、これまでの「ケーブル&衛星」だけでは括ることのできない用語も数多く出てきています。また、より専門的な用語も日常的に使われるようになってきました。そこで、業界用語の間口を少しでも広げて「Broadband / Broadcast / Cable / Satellite」を中心に、“いまさら聞けない”用語をピックアップしてみました。

実務上、また新しいメディアを生活に取り込む上で、新しい用語や専門用語、カタカナ用語など、覚えなくてはならない用語の数々に頭を悩ませている方も多くいらっしゃると思います。

今回の用語集は、2006～2007年版の見直しや更新、そしてこれから頻繁に耳にされると思われるような用語など、新入社員の方から役職者の方に至るまで、さらには今後、この業界に関わっていこうと考えていらっしゃる方々や興味を持たれている方まで、幅広くご活用いただけるようにまとめてみました。

また資料編には、「データで見るBS・CS・ケーブルテレビ」として、各加入世帯数の推移や、関連各社の連絡先やホームページアドレスなども一覧にしました。また、「世界のIPTV事業者一覧」「米国のマルチチャンネルTVデータ」なども、最新の情報を掲載しましたので、ご活用いただければ幸いです。

今回で通算7冊目となりますが、本書を新版として、今後改定を続けながら発行してまいりたいと思っております。情報も日々変化しており、十分網羅されていない部分も数多くあるかと思えます。お気づきの点などありましたら、遠慮なく、編集部宛にご一報ください。

サテマガ・ビー・アイ(株)
「いまさら聞けない用語集」編集部

用語集の使い方と凡例

- (1)本書は、日本および海外(主に米国)の「ブロードバンド / ブロードキャスト / ケーブルテレビ / サテライト」関連の用語解説、そして各種データをまとめた「資料編」からなっています。
- (2)用語解説の配列は、数字・記号、アルファベット、五十音順に分かれています。オリジナルが英語の場合でも一般的にカタカナで表現される用語は五十音順の中に含めました。また、基本的に海外の企業名などはアルファベットで表記しました。英語の略語については、見出し語のあとに正式な英文を入れました。
- (3)本文の構成は下記ようになっており、参照・関連する用語、もしくは同義語とみなされるものを「➡」で示しました。

イーサネット Ethernet

LANの主流方式のひとつ。ゼロックス、DEC、インテルによって共同開発された。そもそもは同軸ケーブルやツイストペアケーブルを使った10Mbpsのネットワークだったが、さらに高速化したネットワークも開発されてきた。現在は従来の10倍の速度である100Mbpsの「ファストイーサネット」が広く普及しており、さらに10倍の1Gbpsの「ギガビットイーサネット」も販売されている。➡『10Base-T』

- (4)本書の用語は、各語の定義を述べたものではなく、あくまでも『解説』を中心にわかりやすく記載したものです。
- (5)ここに掲載された用語および資料編は、2008年4月末現在までのデータに基づいて編集されています。

用語解説

数字記号
A-Z

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

OAB~J

「ゼロエービージェー」。加入固定電話に割り当てられる電話番号の形式。電話番号はサービスや用途によって体系が決められており、加入電話は0で始まり9桁の数字が続く「OAB~J」という形式が使われる。AやBは、数字の代わり。「I」は、1と間違えるので使わない。固定系のIP電話は、一般加入電話とは別の電話網とみなされ、「050」で始まるIP電話用の番号が割り当てられてきた。しかし、総務省が定める「アクセス回線を直接収容し、そのための設備を自前で用意する」「固定電話並みの通話品質と安定性を確保する」加入電話を置き換える場合は緊急通報に対応するなどの一定の条件を全て満たすことで、OAB~J形式の番号を利用できるようになった。

1カメ、2カメ

複数台使うカメラにつける番号。映像調整卓の切り替えスイッチとの関係があるが、スタジオの場合、副調整室から見て左手(下手)側から1、2、3...としておくのが普通。NHKではAカメ、Bカメ、Cカメ...を使っている。

1セグ放送 One Segment

「ワンセグ放送」。地上デジタル放送の電波を利用して、携帯端末向けに放送するしくみで、2006年4月よりサービスがスタートした。UHF帯域1チャンネル(6MHz)は13のセグメントに分割でき、画質により携帯向けの簡易動画放送(強階層)と、固定受信向けのハイビジョン放送(弱階層)に分類できる。この前者のことを携帯端末向けに、ひとつのセグメントを利用することから、「1セグ放送」と呼ばれている。

2イン1画面 Two in One

「ツーインワンガメン」。別のチャンネルの画面を親子テレビのように小さく映し出すこと。たとえば、ニュースの画面にスポーツ中継の画面を小さく表示しておき、視聴者はニュースを視聴しながら、必要に応じてスポーツ中継のチャンネルに切り替えることができる。

3CCDカラーカメラ Three-CCD Color Camera

CCD素子が3枚組み合わされた高感度のカメラ。➡『CCD』

3GPP 3rd Generation Partnership Project

第三世代(3G)移動体通信システムの標準化プロジェクトおよびその標準規格のこと。アメリカのT1、ヨーロッパのETSI、日本のARIB、TTC、中国のCWTS、韓国のTTAの6つの標準化機関で構成されて

いる。1998年の結成当初はW-CDMAの標準化を推進していたが、その後cdma2000も取り込んだ世界共通規格を策定。➡『W-CDMA』『cdma2000』『IMT-2000』

三セク Third Sector

「サンセク」➡『第三セクター』

3点チェック Three Point Check

録画したあるいは録画してあるビデオテープを簡単にチェックする方法。最初の部分と中ほど、最後の部分を再生してチェックする。テープ供給の番組を、時間がないときなどにチェックするのに使うが、録画してあることだけしかチェックできないので、あまり厳密ではない。収録直後の試写を短時間で済ませる方法。テープを巻き戻す途中で、テープの終わり近く、中ほど、始めの部分程度を再生、チェックし、異状がなければOKとする。出演者、スタッフ、スタジオなどの都合で時間がない時に行われる。ケーブルテレビでも通常は反省会を兼ねて、きちんと再生・試写する習慣が必要。

3波共用機

3波は、地上デジタル放送、BSデジタル放送、110度CSデジタル放送。3波共用機とは、3波を1台で受信できるチューナー及びチューナー内蔵(ハイビジョン)テレビのこと。

4:X:Xカラーサンプリング

デジタル映像ではいかに画質を損なわずに圧縮処理を行うかがポイントとなる。人間の知覚は明るさの変化に比べて色の変化には鈍感である、という特性がある。そこで、映像情報をデジタル化(サンプリング)する際に、色の情報を間引いてサンプリングするという方法がとられている。4:X:Xという表記はデジタル映像を構成するY:U(Cb):V(Cr)の各信号のサンプリング比率を表している(Yは輝度信号、UとVは色差信号)。比が少ないほど圧縮率は低く、高画質であるが、映像ビットレートも高くなる。

4:4:4 4:2:2 4:1:1 4:2:0

4:4:4サンプリングでは、輝度情報も色差情報もすべてサンプリングするため、劣化のないきわめて高画質な映像を得る事ができる。圧縮が無い=非圧縮映像である。CG処理や合成などを行う場合に適している。4:2:2サンプリングでは、輝度信号は圧縮せず、色差信号のみ2ピクセルごとに1回サンプリングしていく。デジタルカム、HDCAM、DVCPRO HDなど、放送・業務用機器で採用されている。4:1:1サンプリングでは、輝度信号は圧縮せず、色差信号のみ4ピクセルごとに1回サンプリングしていく。DV、DVCAM、DVCPROな